

あま市の暮らし

第七号 二〇〇二年四月日
発行元 深町町内会連合会
連絡所 西三六三三三八七

「あま市の暮らし」ことばと学校

小林 龍一郎

「広島県三原市深町のことば」年齢差に着目して——京都橘女子大学文学部国文学科法代地慶子さん。本校の卒業生で卒論のために母校においでくださった。深町における方言の年代表変化を研究テーマにし、四百字詰め原稿用紙三二枚という大部冊の論文をまとめて、本校に送付いただいた。さっそくに校内でも紹介した。

情報メディアの発達から純粋な方言が消滅したり、変容したりすることを卒業論文のテーマにされたようである。その概要は、広島方言で打ち消しの過去表現「〜た」「〜なんだ」「〜んかった」についての調査である。具体的な使用例では、「ゆんべ 雨はふりゃーへんだ」「ゆんべ 雨はふりゃーへんだ」「ゆんべ 雨はふりゃーへんだ」「ゆんべ 雨はふりゃーへんだ」。

大論文の中から、結論としてまとめられていることだけ述べると、若年層の町民は過去表現三種のうち、「ゆんべ」が「ゆんべ」か使用していない傾向が判明。そして調査結果を三原市深町下組における方言研究として、昭和四二年に尾道短期大学岡田統夫講師が研究していることとの比較に及んでいく。

調査方法は基本的な自然傍受法で資料の収集を行ない、変化の背景として、若年層は全てを理解したうえで、若年層との会話の壁をなくすために方言の使用を若年層にあわせる努力をしておられる。子どもは幼い頃から老人と一緒に生活していき、その数が増加していることにもその一因があると、原因の特定を予想しておられる。

マスメディアの影響から純粋な方言がだんだん失われてきている現実があるとともに、子どもたちも直接聞く方言が少なくなってきたことにも原因があると指摘されている。

子どもの方言使用に大きな影響を与えるのは、子育てにかかわる中年層の方言使用である。中年層に起きている現象として顕著なものは、「〜なんだ」の表現が消えつつあるということであつた。老年層の方言を話さずらいという状況が、若年層が方言を聞く機会を失っていくという悪循環を生じていると結論づけてある。三十年前の調査から、「〜た」「〜た」という表現はこの地から消えてしまったと言わざるを得ないようである。

昔から子どもは、母親の言葉から次に近所の子どもの言葉から小学校の友だちの言葉からという順序で言語を獲得している。小学生にあてはめて考える

PTA会長時の思い出

深小学校 校舎建設の回想

松本 光明



当時、深小学校建設に当たり、三原市教育委員会より、基本設計が出来たとの連絡があり、教育委員会に出向き、教育長他数名の方と話し合いました。

その頃給食室は校舎の裏にあり、子どもたちは渡り廊下を通って運んでいました。また、教師の車は運動場に駐車していましたが、このような状況を少しでも良くする為に、こちらの希望を市側に伝え、当時の杉原教育長の理解を得ました。

基本設計では、昔の配置はそのまま建物のみを更新する計画を市側は考えていました。建設を施行すると、「五十年間は変えられない」との市側の話しだつたので、給食室を校舎に取り込んだ構造にしてみました。将来子ども達が楽に給食が運べる様に考えました。

これにより、元給食室の跡地を教師の駐車場に使う様申し出ました。こうする事で、子どもたちの苦勞が半減し、教師の車

が運動場からなくなれば、子どもたちも伸び伸びと遊べる様にもなくなり、教師も車に対する気遣いもなくになります。

この構想を達成するために、隣接地の分譲にご協力頂いた岡本様に今更ながら感謝しています。

又、校舎建設の長い間、近隣の方々には大変なご迷惑をおかけしましたが、ご理解を頂き有難うございました。一番苦勞されたのは教師、及び子ども達だつたと思います。

プレハブの教室と塀に囲まれた狭い遊び場で、事故もなく新校舎の完成を迎えられた事は何よりでした。校舎竣工時には町民の皆様にお礼申し上げます。厚くお礼申し上げます。

月日の経つのは早いもので、あれから早や二〇年にもなりますが、深小学校が今後共益々発展することを願って居ります。

十代（昭和五五年）会長 ▲



と、小学校における共通語化の傾向がますます進み、今後その傾向はますます進んでいくに違いないと予想してある。

この研究論文から教えられることは、豊かな言語文化は、ふるさとを大切に育む人間関係と人々の心を豊かに育む営みをしてきたようである。大切に受け継ぎ、優しさと思いやりの言語文化を子どもたちに伝えたい。トト口の森の腕白たちにそのことを伝えたいという思いに強く駆られる。

この三年間は地域の皆さまに支えていただいた日々でした。子どもと地域のみなさまとの出会いを大切に、そして私の心に感謝の念を深く刻み込んでいきたいと思ひます。皆さまの細やかなお心配りをいただいたお支えに心から感謝申し上げます。

▲ 退任

入学おめでとう

植田 峻輔	安藤 千晶
岸 海南	井手上 千春
網掛 祐翔	鶴谷 真央
野村 佑介	畑中 真璃子
小榮 浩樹	藤原 里紗
湯淺 圭祐	村田 力武
	布美子



喜代子

奉仕する高校生

如水館高校インターアクトクラブ(奉仕と国際理解を深める目的の会)代表 東葉子(会員十八人)が、三月十七日深千川神社から尾道境までの県道清掃奉仕作業に汗を流しました。

地域の方から感激の電話がありました。 謝! 編集部

有り難うございました

今年、三月末で退任された元深小学校長 小林龍一郎先生から、太鼓三張り。鏡面三面、法被二五着の寄贈を受けました。これ等は大切に使用させていただきます。郷土芸能保存に一層の努力をいたします。

四月町内各種団体行事予定

◆小学校(幼)	就任式・始業式	六日
◆入学式	一〇時	七日
◆離任式		〇日
◆集金日		一日
◆貯金日・入園式		二日
◆参観日・PTA総会・歓迎会		五日
◆家庭訪問	(上)	九日
◆同	(中)	一〇日
◆同	(下)	二〇日
◆なかよし遠足		二四日
◆町内会	総会(上)	九日
◆同	(中)	九日
◆同	(下)	九日
◆同	(連合会)	下旬
◆尚寿会	総会	六日
◆女性会	総会	八日
◆親睦会	(上)	六日
◆(中)	一日	九日
◆(下)	一日	九日



黒地の路面に黄色のセンターラインが伸びる。町民宿願の歩道がほとんど完成した。児童を初めとする県道使用者は、これだけで格段の安全が確保され、カーブ部も緩やかに補正され、痛ましい交通事故もこれではなくなる。国道二号の交通渋滞から推して、中之町・深町・美ノ郷町經由の車は今後も増えることは確実。特に三原バイパスが全線開通するまでは、この五五号線がバイパスの機能を代行するのではなにか。特に深小学校、如水館校に通う児童・生徒にはなによりのプレゼント。▼歩道を整備した道が整備できたのも、地権者のみなさんの協力があったもの。で大変ありがたい。歩道設置は小学校PTAが唱えて、一五年以上の歳月が流れたのではなにか。町内会連合会が発足したのは九三年、当時の最重要課題として取り上げられたのが「歩道設置」。地域の声が行政に届いて今日に至った。▼国道・高速自動車道を始め、港湾・空港等の公共施設が整備されることにより、我々は快適(公害もある)な生活ができる。私権の主張は、「公共」を視野に入れたパランスのとれたものであることが望ましい。深町にできた時バイパス、完成一步手前の歩道は、公共の二字を考慮の外に置いては考えられぬ地権者の英断。

「近東伊太利航路」の思い出 (6)

秋本 俊之

ゼノヴァは伊太利最大の国際港ですが、観光都市として有名でも市内には、欧州一般の都会の様に「ルネッサンス」時代の文化遺産が街中にあふれ、街の雰囲気、ヨーロッパ風の石の芸術品があふれていると言っても過言ではありません。

「ゼノヴァ」に於ける停泊期間が四〇日と長かったため、暇をみては上陸し散歩旅行を楽しむに出かけました。

その中に、積み荷に関してロンドンの英国政府と、日本の大使との話し合いが付き、今回の宝蘭丸の積み荷の「ドイツの発電機」については黙認の形をとることとなった由で、ようやく出港する事が出来ました。

「けん」と

小林正美・千穂

我が家の末っ子が、この新学期より深幼稚園の年長(黄組)になります。

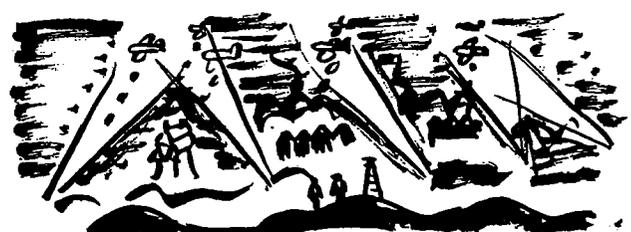
五年生になる娘、二年生になる息子達とは違い、落ちつきのない子で、少し心配しております。そんな息子の名は「健人」(けん)と言います。

上組の方からは、今のところ近所に幼稚園児がおらず、今まで一緒に通っていたお姉さん達二人も一年生になり、行きは家族が送って行きますが、帰りは長畑鉄工所前より歩いて帰ってきます。今までも、二人のお姉さんと歩いて帰っており、時には一人になることもあったのですが、家にはちゃんと帰れており、そう心配はないのですが、帰り道が一人になるといふ事は、人のかかわりもないという事は、

腰し掛けば一と休んでいると、現地人が近寄り、伊太利なまりの英語で話しかけてきて、一時を過ごしたことも、楽しかった思い出の一つです。

街を散歩しながら買物をする時も、当時の日本はまだ経済力もなく、日本金はそのままだと見分けることも、英国のポンドなら「OK」でも「ジャパマン」は「ノーグッド」と取ってくれない。又、街行く人も中国人と間違えられた事がよくありました。中国人と日本人は全くよく似て見分けがつかないのも尤もだと思いました。

ボクの学童集団疎開の思い出
元 大阪市立海老江東国民学校
1ねん ニシダカツヒコ
(その1) 昭和20年3月3日 大阪大空襲
その頃 毎晩のように空襲警報のサイレン。弟が
生れて3日目の晩。米軍B29爆撃機編隊が教回
飛来。爆弾・焼夷弾が投下
され。爆風と共に家の障子も真赤。
母子4人が防空壕へ。家に残
った時 弟の胸の緒は母の背中に
貼っていた。翌朝 淀川大橋が照準で大破
と知る。運河には土佐工門や馬の
死骸が浮かび近隣の家がくすぶっていた。
後に在郷軍人だった父より、生駒山上より見た
大阪街は火の海だったと直撃した。(次頁に)



本年もよろしく
深山もすっかり春めいてまいりました。暖かい春の日ざしの中で、四月には新一年生十三名が入学し、八十名になります。在校生も楽しみに待っているところ。昨年度は、地域の方々にとってもお世話になりました。裏山の自然体験コースの整備、新春ふれあい広場でのとんど作り、こまの回し方や昔の暮らしについても教えていただきました。また、昔のおかしの作り方も教えていただきました。先生は「学校の先生」だけでなく、地域のおばあちゃんやおじいちゃん、近所のおじさんやおばさん、隣のお兄さん、おねえさん、地域の方も先生として学ばせていただきました。地域の歴史、そこで生きてきた方々の生活の知恵、地域への思い、願い等々、体験が貴重な体験でした。このように体験は、友だちや保護者、地域の方々とのかわりを深め、相手の思いを尊重することを学んでいます。今後とも、子どもたちにも「生きていくためにがんばりますので、ご支援をお願いいたします。」

で、折角の帰り道、人のかかわりなど大切にしたいと思ひ、皆様にご協力をお願いしようと思ひ、二人が帰る道中暖かく声をかけて頂いておりました。謝しておりますが、けんとは、恥ずかしがり屋のわりに、やんちゃな所があり道中ご迷惑をおかけする事もあるかも知れません。

りしてやって頂けたら...と、思っております。小さな子どもというのは、悪い事をしていても後で言われても忘れてしまったり、意味がわからなかったりします。『いけないな』『あぶないな』と、思うところをもし見かけられたら、その時、その場で叱り、

教えてやって頂けたらありがたいと思ひます。人と人のかかわりは、小さな時からか、わっている、大きくなっても自然と続けられてくのではないのでしょうか。小さな町の子どもの話ができる。少しでも多くの人と話ができる。少人数の方でも心がけられています。息子の姿を見かけたら、声をかけ、気にしてやって下さいませようお願いします。

折角の帰り道、人のかかわりなど大切にしたいと思ひ、皆様にご協力をお願いしようと思ひ、二人が帰る道中暖かく声をかけて頂いておりました。謝しておりますが、けんとは、恥ずかしがり屋のわりに、やんちゃな所があり道中ご迷惑をおかけする事もあるかも知れません。

- 春夏秋冬
弥生春 子孫ひ孫に 囲まれて
四歳児 ひい孫娘 格好よく
年々 弱る身体は 愛おしき
年々 弱る身体は 老を感じし

